

(臨床研究に関するお知らせ)

和歌山県立医科大学附属病院眼科に、強度近視網膜分離症で通院歴のある患者さんへ

和歌山県立医科大学眼科学講座では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご案内するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本学倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われる方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

強度近視網膜分離症の手術成績の検討に関する後ろ向き研究

2. 研究責任者

和歌山県立医科大学眼科学講座 講師 住岡 孝吉

3. 研究の目的

強度近視網膜分離症とは特別近視が強いため眼軸が延長し、眼の内側に貼り付いている網膜が分離してしまい視力低下や歪みをきたす疾患です。以前は難治な疾患とされていましたが、近年では硝子体手術の目覚ましい発展と光干渉断層計の使用で術前からの網膜の詳細な評価が可能になったことで、硝子体手術で改善する症例が増えてきました。しかし、術後どれくらいの期間で網膜の形態や視力が改善してくるのか、視力や歪みの改善率はどの程度かの報告はあまりありません。

そのため、和歌山県立医科大学での過去の手術症例をカルテから拝見させていただき術前後の視力や網膜の形態学的変化を検討することで、手術適応の決定や術前患者さんへの視力予後の説明時に有用な研究になると考えています。

4. 研究の概要

(1) 対象となる患者さん

強度近視網膜分離症の患者さんで、2015年1月1日から2016年12月31日までの期間中に、硝子体手術を受けた方

(2) 利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂くデータは、手術前後の視力、光干渉断層計を用いた網膜の形態に関する情報です。

(3) 方法

今回の研究は、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する後ろ向き研究という臨床研究です。対象となる患者さんに新たな検査や費用の負担はありません。評価項目に基づいたデータベースを作成するため診療録から臨床情報の収集を行いますが、情報を得た地点で氏名、住所、生年月日等、個人を特定できる情報は削除し、個人が特定できないようにします。

5. 個人情報の取扱い

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用さ

れることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させて頂きます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

7. 問い合わせ先

和歌山市紀三井寺 811-1

和歌山県立医科大学眼科学講座 担当医師 住岡 孝吉

TEL : 073-447-2300 FAX : 073-448-1991

E-mail : sumioka@wakayama-med.ac.jp